

## 式 辞

皆さんにとって記念すべき日である卒業式が、新型コロナウイルス感染対策のため、このような形での式典となり、誠に残念に思います。

卒業式に限らず、この一年は、長期にわたる臨時休校やいわゆる3密を避けるために、様々な学校行事が中止になるなど、失うものの多い年であったと思います。

それでも皆さんは、くじけずに今日の卒業の日を迎えられました。

あらためてお祝いの言葉とともに、そのことに敬意を表する次第であります。

ここしばらくは全校集会も放送でしたので、こうして壇上から皆さんの姿を拝見するのも久しぶりな感がありますし、皆さんが三年前に入学してきたときの不安そうな面持ちも、いまではすっかり自信に満ちあふれて、成長の跡が感じられます。

思い返せば、皆さんとは一緒にマレーシアに行きましたね。

行く前の「よりによってマレーシアって何だよ！」という皆さんの嫌そうな顔。

行ってしまえば、「結構マレーシア楽しくね！」という満面の笑顔。

そして千歳に帰ってきたときに見せた「やっぱり日本が良いわ。」といった安堵の顔。

「本当みんな正直だなあ・・・」とつくづく思いました。

自分の気持ちに正直に生きることは、とても大切なことです。

でも、社会に出ると、なかなかそれは出来なくなりますし、その勇気も持てなくなるものです。

自分にウソをついて生きることくらい辛いことはありません。

人はそれをストレスと言います。

これから皆さんに求められるのは「胆力」です。

事に当たって、恐れたり、尻込みしない肝っ玉、そういう精神力を培いながら、社会の荒波を乗り越えていかなければなりません。

それから社会人の先輩として、「相手を待たせない」ということを言うとおきたいと思います。

小さな約束を守れない人間に、大きな約束が守れるわけがありません。

訪問や待ち合わせの約束をしたら、絶対に相手を待たせてはいけません。

約束の時間に五分でも十分でも遅れると、相手のあなたへの信頼は半減してしまうでしょう。

ビジネスは契約が原則です。

どんな小さな事でも約束を守ることが条件です。

時間は、目に見えないせいか、意外とルーズになりやすいものですが、人の信頼度を計るには一番わかりやすい目安となるものです。

「相手を待たせない」これを最後のアドバイスとして贈ります。

さて、動画配信をご覧の保護者の皆さん、ご息のご卒業誠におめでとうございます。

そして、今日まで本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに衷心より厚く感謝申し上げます。

この子たちは、これから社会に出て行き、百年後の世界の礎を築いてくれるでしょう。

どんな未来が待ち受けているのかは、誰にもわかりませんが、彼らにはこの学園で培ったチャレンジャー精神が脈々と息づいているはずです。

様々な試練にも果敢に立ち向かってくれるでしょう。

どうかそんな彼らを温かく見守っていただきたいと思います。

最後に、これまで毎年、卒業生には「父母恩重經」を差し上げてきました。

君達にも卒業証書と共に贈呈します。

このお経の中には、何度も「父母の恩重きこと天の極まり無きが如し」という言葉が出てきます。

親不孝な行いを戒めるために、父母の恩というものは非常に重たいものであるということを説いているのです。

卒業という一つの区切りに、あらためて親に対し感謝の気持ちを伝えてください。

以上、申し上げます。

令和三年三月一日

白樺学園高等学校長 嶋野幸也